



FUKUOKA
NURSING
COLLEGE

2023年度 シラバス

第4学年
(2021年以前入学生対応)

科目ナンバリングのコード配分規則

(例) DN011001

DN 01 1 001

	学部	学年水準	履修区分	通し番号
(例)	DN (看護学部)	01 (第1学年)	1 (必修)	001 (先頭の科目)
詳細	別表1	別表2	別表3	別表4

別表1

識別文字	学科名等	英語標記
DN	看護学科	Department of Nursing

別表2

番号	付加情報
00	導入レベル
01	1年
02	2年
03	3年
04	4年
07	共通
08	単位互換科目

別表3

番号	付加情報
0	なし
1	必修
2	選択必修
3	選択
4	自由科目
9	その他

別表4 (看護学部看護学科)

番号	科目分野	科目区分
001 ~ 400	基礎分野	思考力 001 ~ 表現力 71 ~ 人間と生活 141 ~ 文化と社会 211 ~ 人としての態度 281 ~ 基礎学力 351 ~
401 ~ 600	専門基礎分野	人体の構造と機能 401 ~ 疾病の成り立ちと回復の促進 451 ~ 健康支援と社会保障制度 501 ~ 健康現象の疫学と統計 551 ~
601 ~ 800	専門分野	基礎看護学 601 ~ 健康支援看護学 651 ~ 地域・在宅看護学 701 ~ 統合・実践 751 ~

目次

4年

課程表（看護師養成課程・保健師養成課程）

科目ナンバリングコード配分規則

【前期】 ※科目名をクリックすると当該科目のシラバスページになります

必修科目

科目名	区分	ページ
口腔機能援助論	演習	3
well-being care 統合	演習	5
統合看護学実習	実習	7

選択科目

科目名	区分	ページ
※公衆衛生看護活動論Ⅳ (学校保健・産業保健・健康危機管理)	講義	10
※公衆衛生看護活動論Ⅴ (公衆衛生看護管理)	講義	12

※1 保健師課程の学生については、必修科目となる。

公衆衛生看護活動論Ⅳ

公衆衛生看護活動論Ⅴ

【通年】 ※科目名をクリックすると当該科目のシラバスページになります

必修科目

科目名	区分	ページ
看護課題研究	演習	14

選択科目（保健師課程を許可された者のみ受講可能）

科目名	区分	ページ
公衆衛生看護学実習	実習	16

【後期】 ※科目名をクリックすると当該科目のシラバスページになります

必修科目

科目名	区分	ページ
看護管理	講義	18
包括的情報システム論	演習	20

選択科目

科目名	区分	ページ
災害看護	演習	22
国際看護	講義	24

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN041758	専門	必修	口腔機能援助論	演習	1	30	15	4年次前期

関連するディプロマ・ポリシー NO. 4, 6

評価責任者及び担当教員

評価責任者：晴佐久悟 担当教員：晴佐久悟、内藤徹、青木久恵、内田荘平、岩本利恵、宮園真美、飯野英親、中島富子、藤岡奈美、三好麻紀、町島希美絵、門司真由美、宮坂啓子、中西真美子、青野広子、末永陽子、秋永和之、原やよい、松尾里香、西田彩子、香山 真衣子、高野 佳範、有永麻里

授業の目的とねらい

〈授業のねらい〉
他職種と協働して、あらゆる発達段階・健康障害をもつ対象者に、口腔の健康（摂食・咀嚼・嚥下・言語など）支援することが全身の健康支援になることを理解し、実践できる。
〈実務経験を生かした教育内容〉
歯科大学予防歯科に歯科医師として勤務し、講義、実習の実務経験を生かし、看護師の口腔アセスメント、口腔ケア法を指導する。歯科大学高齢者歯科学分野に歯科医師として勤務し、成人・高齢患者への歯科診療実施、歯学生への成人・高齢歯科学の講義、基礎実習、臨床実習教育の実務経験を生かし、歯科医師、看護師との連携、口腔ケアの実践法、口腔アセスメント法を指導する。これらの指導により、摂食、嚥下、咀嚼、言語など口腔のもつ様々な機能の評価、改善法についての方法を学び、身に着けさせる。
この教科では、教科書、配布資料、スライド、模型、口腔ケア器具等を使用し、グループディスカッションを含めた演習を行う。

到達目標

- 全体像の理解 知識
 - 口腔ケアの意義・定義を説明できる。
 - 各ライフステージの症例に応じた口腔のアセスメントを実施でき、歯科受診の必要性について説明できる。
 - 各ライフステージの症例に応じた、多職種連携の器質的、機能的口腔ケアについて説明できる。
 - オーラルフレイルの概念、口腔機能低下症について説明できる。
- 態度形成 態度
 - 口腔医学を知り、口腔アセスメント・口腔ケアへの積極的な態度を養う。
 - 患者への口腔アセスメント・口腔ケア実施に関する基本的な態度を養う。
- スキル形成
 - 各ライフステージの症例に応じた患者の口腔のアセスメントを実施でき、歯科受診の必要性について説明できる能力を身につける。
 - 各ライフステージの症例に応じた患者の口腔ケアを実施できる能力を身につける。

準備学習

配布資料をもとに予習・復習をする。予習・復習に必要な時間は全体で 15 時間とする。

成績評価基準

授業態度（10点）・課題内容（90点）など総合して評価する。課題の締め切りに遅れた場合は、減点されるので、締め切り日に注意する。授業態度には、授業に臨む姿勢、プレゼンテーション、グループ討議などのディスカッションが含まれる。

課題等に対するフィードバック

課題レポート等は、評価後に返却し、正答の掲示および解説を行う。

教科書・参考書など

教科書：水田祥代・窪田恵子監修 「授業・演習、臨床・在宅現場でも、すぐに使える！看護で教える最新口腔ケア」 大道学館出版部
参考書：渋谷絹子・天笠光雄他 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔」 医学書院深井喜代子 著
「新体系 看護学全書 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ」 メヂカルフレンド社
山口瑞穂子 監修 「新訂版 看護技術講義・演習ノート上巻」 サイオ出版

授業内容

回	担当教員	授業内容
1	晴佐久、青木、三好、	ユニット1
2	門司、西田、香山、高野	1) 患者を想定した口腔ケアシミュレーション実習において、評価項目に従い、口腔アセスメント・口腔ケアが実施できる。 2) 患者を想定した口腔ケアシミュレーション実習において、評価項目に従い、他の学生を評価し、問題点を指摘することができる。
3		

4	内藤, 宮園, 宮坂, 町島, 松尾, 晴佐久	ユニット2
5		1) 高齢者における口腔ケアの意義・手技を学習し、口腔機能低下症の検査、管理および歯科と連携する看護の方法について学ぶ。 2) 高齢者の口腔機能のアセスメント、口腔機能訓練について学習する。
6	内藤, 岩本, 有永, 晴佐久	ユニット3
7		1) 成人慢性期・終末期にある対象者の口腔アセスメント、口腔ケア、他職種連携を学ぶ。 化学療法の必要な対象者の口腔セルフケアを促す生活指導計画を立案し、指導媒体の作成法について学習する。
8	内藤, 内田, 末永, 秋永, 晴佐久	ユニット4
9		1) 周術期における口腔ケアの意義・手技、周術期患者の歯科治療、専門的口腔ケアの必要性について学ぶ。 2) 周術期患者の口腔ケアの術式、注意すべき事項を学習する。
10	飯野, 青野, 晴佐久	ユニット5
11		1) 小児の口腔ケアの意義、小児患者の口腔アセスメント法、発達段階に応じた子どもの口腔ケアの留意点について学ぶ。 2) 化学療法を行う学童患児への口腔管理援助技術、口内炎等の口腔内トラブルを有する学童患児の口腔ケア法について学習する。
12	藤岡, 中西, 晴佐久	ユニット6
13	中島, 原, 晴佐久	ユニット7
14		1) 精神疾患患者の口腔の状況、特有の口腔疾患、口腔ケア法について学ぶ。 2) 慢性期の精神疾患患者に対する口腔ケアの心理教育法を学習する。
15	晴佐久	ユニット8
		1) 実際に病院・施設で多職種連携をしながら口腔機能援助を実践している看護師の活動内容を学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講時期
DN041759	専門	必修	well being care 統合	2	2	60	30	4年前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 3・4・5・6・7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：藤岡奈美 担当教員：藤岡奈美・中島富有子・内田荘平・岩本利恵・飯野英親・宮園真美・三好麻紀・末永陽子・秋永和之・原やよい								
授業の目的とねらい								
<p>4年生の前期にあるこの科目では、基礎・専門分野での実習を振り返り、看護専門職としての問題意識に基づいた自らの課題を明確にする。その課題をグループワークや文献を用いたディスカッションにより主体的に追求し、well-being care の視点から様々な発達段階や回復過程にある看護の対象者への健康生活の支援を再考する。</p> <p>また、自己の課題を解決するための方法や技術について計画的に学習し、看護実践につなげる。さらに、看護実践後に、各自の看護実践をまとめ、全体での討論会を学生主体で開催し、4年間の学習を通しての看護観の変化や自分にとってのwell-being care とは何かをプレゼンテーションし、学び合うことを目標とする。</p> <p>この科目は、全体での授業と統合看護学実習の分野での授業に分かれて取り組む。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>公立病院や大学付属病院における成人慢性期・終末期看護の経験を活かし、疾病や障害とともに生きる対象者および家族の最適な生活（well-being）を目指した看護の実践を指導する。セルフマネジメント、セルフケアの自立のため患者教育、指導についても教育する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 基礎・専門分野の実習での経験をもとに、様々な発達段階や回復過程にある対象者および家族への健康生支援をwell-being care の視点で振り返ることができる。</p> <p>2) 文献を活用して自己の主張をまとめることができる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1) グループディスカッションに積極的に参加できる。</p> <p>2) グループメンバーとコミュニケーションをとり、協働できる。</p> <p>3) 計画的に課題に取り組むことができる。</p> <p>4) 専門職としての問題意識に基づいて主体的に追求できる。</p> <p>3. スキル形成</p> <p>1) 自己の振り返りについて論理的に文章を書ける。</p> <p>2) テーマに沿って発表資料を作成することができる。</p> <p>3) グループでまとめたテーマについてプレゼンテーションを行うことができる。</p>								
準備学習								
事前課題のレポートを作成し、初回授業にのぞむ。各回に必要な資料や文献を準備する。本科目における準備学習は、29時間とし、各分野の必須知識の復習、および実習での未達成技術に関する復習をしておく。								
成績評価基準								
<p>個人で作成するレポート（15×6点）、グループディスカッションへの参加態度（5）、グループでのプレゼンテーションなどの評価（5）の集計（100点満点）で評価する。</p> <p>課題の締め切りに遅れた場合は評価シートに記載の通り減点されるので、締め切り日に注意する。</p>								
課題等に対するフィードバック								
課題レポートは、評価後に返却する。評価内容やコメントは、評価者から個別に伝える。								
教科書・参考書など								
適宜指示をする								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						

1・2	内田	ユニット1 急性期看護における well-being care ・急性期にある対象の看護学実習を振り返り、看護専門職としての問題意識に基づいた課題に関する文献学習とグループディスカッションから well-being care の視点で看護について理解を深める。
3・4	岩本	ユニット2 慢性期看護における well-being care ・慢性期にある対象の看護学実習を振り返り、看護専門職としての問題意識に基づいた課題に関する文献学習とグループディスカッションから well-being care の視点で看護について理解を深める。
5・6	飯野	ユニット1 小児看護における well-being care ・小児期にある対象の看護学実習を振り返り、看護専門職としての問題意識に基づいた課題に関する文献学習とグループディスカッションから well-being care の視点で看護について理解を深める。
7・8	藤岡	ユニット1 母性看護における well-being care ・周産期にある対象の看護学実習を振り返り、看護専門職としての問題意識に基づいた課題に関する文献学習とグループディスカッションから well-being care の視点で看護について理解を深める。
9・10	中島	ユニット1 精神看護における well-being care ・精神疾患にある対象の看護学実習を振り返り、看護専門職としての問題意識に基づいた課題に関する文献学習とグループディスカッションから well-being care の視点で看護について理解を深める。
11・12	宮園	ユニット1 在宅高齢看護における well-being care ・在宅高齢者の看護学実習を振り返り、看護専門職としての問題意識に基づいた課題に関する文献学習とグループディスカッションから well-being care の視点で看護について理解を深める。
13・14・15	内田	ユニット6 自己の学習課題 ・well-being care を実践するために必要な共通の実践的技術のトレーニングができる。 ①急性期看護における実践的技術のトレーニング
16・17	藤岡	②母性看護における実践的技術のトレーニング
18・19	飯野	③小児看護における実践的技術のトレーニング
20・21・22	岩本	④慢性期看護における実践的技術のトレーニング
23・24	中島	⑤精神看護における実践的技術のトレーニング
25・26・27	宮園	⑥在宅高齢看護における実践的技術のトレーニング
28・29・30	共同 藤岡（母性） 小児（飯野） 在宅・高齢者（宮園） 慢性・急性 （秋永 末永）、 基礎（三好） 精神（原）	⑦自己の学習課題および共通の実践的技術のトレーニング 28. 国家試験出題基準に基づく必須科目の振り返り 29-30 統合看護学実習配置に応じた各分野における well-being care の考察 well-being care を実践するために必要な共通の実践的技術のトレーニングができる。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講時期
DN041761	専門	必修	統合看護学実習	実習	2	90	-	4年前期
関連するディプロマ・ポリシー NO.1・2・3・4・5・6・7								
評価責任者及び担当教員								
<p>評価責任者：飯野英親 担当教員：飯野英親、青木久恵、内田荘平、岩本利恵、藤岡奈美、中島富有子、角森輝美、宮園真美、三好麻紀、門司真由美、町島希美絵、吉田大悟、末永陽子、秋永和之、中西真美子、青野広子、宮坂啓子、原やよい、黒岩千翔、松尾里香、寒水章納、山中 富、西田彩子、高野佳範、香山真衣子、山元万里子、有永麻里</p>								
授業の目的とねらい								
<p>この科目では、専門分野の実習を振り返り、学生が看護の問題意識に基づいた自らの課題を明らかにし、その課題解決に向け、主体的に臨地実習を計画、実施、評価することで、これまでの学びを統合する。また、実習を通して、対象者に応じた個別性のある口腔を起点とした全身の健康支援について、探求する姿勢を修得する。最適な生活（well-being）を目指した看護を追究し、主体的な課題探求方法を修得する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 最終学年で行う統合看護学実習の目的・意義について説明できる。 2) 学修した対象者及び家族の最適な生活（well-being）を目指した看護の自らの課題について説明できる。 3) 他職種と協働・協調する方法・重要性について説明できる。 4) 実習で提供可能な、口腔を起点とした全身の健康支援の技術について説明することができる。 5) 看護分野で定めた実習内容の目的・目標・実践方法について説明できる。 <p>2. 態度形成（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関連する予習を行ったうえで授業に参加する。 2) 自らの課題解決に向けて、実習目標や行動計画を学生自ら設定し、実習担当教員から助言を受けて修正する態度を養う。 3) 主体的に実習を進めるために、教員と積極的なコミュニケーションを図りながら進める態度を養う。 <p>3. スキル形成（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目標に沿って、対象者及び家族の最適な生活（well-being）を目指した看護を実践できる。 2) 口腔を起点とした全身の健康支援の技術が実践できる。 3) 看護分野で定めた看護内容が実践できる。 4) 対象者及び家族の最適な生活（well-being）を目指した看護の意義について説明できる。 5) 臨地実習を通して、自らの課題解決について評価することができる。 								
準備学習								
<p>これまでの看護実習内容を振り返り、患者・家族の well-being を支援するための実践的課題、看護師としての自らの実践的課題、口腔を通した全身への健康支援に関する課題について復習する。予習・復習に必要な内容は担当教員が別途指示する。</p>								
成績評価基準								
<p>統合看護学実習の評価表に基づいて、実習目標の達成度、自己学習内容と実習場所での取り組み内容、全ての実習記録等、総合的に評価する。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>課題は担当教員を通して、グループごと、または個人に対してフィードバックする。</p>								
教科書・参考書など								
<p>教科書： 看護者の倫理綱領（日本看護協会） その他、実習を通して適宜、文献や資料を紹介・配布する。</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
	全担当教員	ユニット 1 看護の問題意識に基づいた課題を明らかにする。 1) 専門分野の実習を振り返り、看護の問題意識に基づいた自己の課題について説明できる。 2) 看護の問題意識に基づいた課題を明らかにする方法が説明できる。
	全担当教員	ユニット 2 看護の問題意識に基づく自らの課題を解決するために、学生自ら看護活動の場で臨地実習を計画・実施・評価し、主体的な課題探求方法を修得する。 1) 看護専門領域が示した臨地実習コースの実習内容から、自らの課題解決に向けたコースを選択できる。 2) 自らの課題解決に向け、実習目標を設定できる。 3) 自らの課題解決に向け、行動計画を立案できる。 4) 助言を受けながら、実践可能な実習計画に修正できる。 5) 実習計画に従い、課題解決の実施ができる。 6) 課題解決の効果が得られない等、状況によって、実習計画を修正できる。 7) 課題探求の方法が説明できる。
	全担当教員	ユニット 3 援助的人間関係 対象者に応じた援助的人間関係の構築について理解を深める。 1) 対象者に応じた援助的人間関係の構築ができる。 2) 対象者に応じた援助的人間関係の構築について、自分の意見を述べることができる。
	全担当教員	ユニット 4 対象理解 対象者を身体的・精神的・社会的側面から適切に理解する。 1) 対象者を身体的・精神的・社会的側面から捉え説明できる。 2) 対象者を身体的・精神的・社会的側面から適切に理解する方法について、自分の意見を述べるができる。
	全担当教員	ユニット 5 最適な生活 (well-being) を目指した看護過程 対象者に応じた最適な生活 (well-being) を目指した看護過程の展開方法について理解を深める。 1) 対象者に応じた最適な生活 (well-being) を目指した看護過程の展開ができる。 2) 対象者に応じた最適な生活 (well-being) を目指した看護過程の展開方法について、自分の意見を述べることができる。
	全担当教員	ユニット 6 他職種との協調・協働 他職種と協調・協働する必要性とその効果を理解することで、看護専門職として他職種と協調・協働する姿勢を修得 1) 実習現場における他職種と協調・協働する必要性とその目的や効果について説明できる。 2) 実習現場における他職種と協調・協働の意義について、自分の意見を述べることができる。
	全担当教員	ユニット 7 在宅高齢者の看護 (該当する看護分野) 在宅高齢者に対する看護の必要性および効果を理解することで、在宅高齢者に応じた看護実践を目指す姿勢を修得する。 1) 在宅高齢者に対する看護の必要性および効果を説明できる。 2) 在宅高齢者の最適な生活 (well-being) を目指した看護について、自分の意見を述べることができる。
	全担当教員	ユニット 8 口腔を起点とした全身の健康支援 対象者に応じた個別性のある口腔を起点とした全身の健康支援について、探求する姿勢を習得する。 1) 各看護学実習で学んだ口腔を起点とした全身の健康支援の方法を振り返り、科学的根拠に基づいた口腔の健康支援について説明できる。 2) 口腔の健康支援に必要な多職種と協調・協働する方法について説明できる。 3) 医療・施設・自宅などあらゆる場に応じた口腔の健康支援について説明できる。 4) 対象者の状態に応じた口腔を起点とした全身の健康支援について、自分の意見を述べることができる。

全担当教員	<p>ユニット9 課題解決の評価 看護の問題意識に基づいた課題解決の評価方法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 行った看護について自己評価ができる。 2) 看護の問題意識に基づいた課題解決の評価方法を説明できる。
全担当教員	<p>ユニット10 自己の学習課題 実習を振り返り、今後の学習課題を明確にする。 様々な発達段階やあらゆる健康の段階にある対象者及び家族の最適な生活（well-being）を目指した看護を行うための、今後の学習課題について説明できる。</p>

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN043714	専門	選択	公衆衛生看護活動論IV (学校保健・産業保健・健康危機管理)	講義	1	30	15	4年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 4・7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：角森輝美 担当教員：角森輝美・吉田大悟・寒水章納								
授業の目的とねらい								
<p>学校保健の目的、法制度とシステムとともに、対象者の成長や発達課題に対する健康問題について学習する。さらに、学校保健計画や学校安全計画の実際について学ぶ。産業保健の理念と目的について理解し、労働者とその健康問題について学修する。また、法制度の下に展開される保健活動の実践例と共に、地域職域連携の展開を学ぶ。学校や職場は住民の生活の場としてとらえ、公衆衛生看護の一つとして学ぶ。健康危機管理の定義やリスクマネジメントの考え方について理解し、感染症調査や災害時の保健活動について事例を基に学修する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識 1) 学校保健計画や学校安全計画方法について述べるができる。 2) 産業保健の理念と目的について述べるができる。 3) 健康危機管理の定義とリスクマネジメントの考え方について説明することができる。</p> <p>2. 態度形成 1) 自らの意見を述べたりディスカッション進行の役割を引き受けたりして積極的にディスカッションに参加できディスカッションでの役割を理解する。その中で特に記録（板書）の役割や技術の習得ができる。 2) 学校保健、産業保健、健康危機管理に興味関心を持ち積極的学ぶことができる。</p> <p>3. スキル形成 感染症調査や災害時の保健活動について事例をもとに自らの意見を述べディスカッション進行の役割を引き受けるなどをして積極的にディスカッションに参加し、記録（板書）の技術が習得できる。</p>								
準備学習								
<p>講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。 学生は課せられる課題や、その他学習活動に15時間を費やすこと。 講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。</p>								
成績評価基準								
筆記試験（80点）および 演習レポート・授業態度（20点）により総合100点で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
課題は評価後に返却し、解説をおこなう。								
教科書・参考書など								
<p>(教科書)</p> <p>標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 標準保健師講座3 対象別看護活動 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p> <p>(参考書)</p> <p>保健師業務要覧 2020年版 新版 日本看護協会出版会 産業看護学 2016年版 講談社 学校保健マニュアル第9版 南山堂 アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き 日本看護協会健康政策部</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	吉田	ユニット1 産業保健 産業保健の理念と目的を学び、歴史を基にその動向を理解する。
2	吉田	ユニット1 産業保健 産業保健の制度、システムおよび法令を基盤に学習し、保健活動の組織体制について理解する。
3	吉田	ユニット1 産業保健 産業における健康問題を分析し、健康課題を理解できる。
4	吉田	ユニット1 産業保健 働く人々のメンタルヘルスの現状を知りメンタルヘルス対策について学ぶ。
5	吉田	ユニット1 産業保健 産業保健活動における産業看護職の職務を理解する。
6	吉田	ユニット1 産業保健 産業保健活動を地域職域連携の活動を通してライフステージの健康課題として捉える。
7	角森	ユニット2 健康危機管理対策 健康危機管理の4段階を学び、リスクマネジメントの方法を理解する。
8	角森	ユニット2 健康危機管理対策 健康危機管理の要素と展開方法を理解する。
9	寒水	ユニット2 感染症集団発生と保健活動 集団発生時の調査や患者・関係者への相談支援の方法について理解する。
10	寒水	ユニット2 感染症集団発生と保健活動 集団施設に対する平常時からの支援を理解する。
11	寒水・角森・吉田	ユニット3 感染症集団発生と保健活動 提示した事例に対してディスカッションをおこない、その結果を参考に課題に対する自分の考えをまとめる。
12	寒水	ユニット4 学校保健 1. 学校保健と看護の歴史と動向について学び学校保健の制度を理解する。 2. 学校保健安全に関する法規および学校保健計画・学校安全計画について理解する。
13	寒水	ユニット4 学校保健 1. 養護教諭の職務および学校環境衛生や学校給食について理解する。 2. 学校保健の問題を知り、幼児および児童生徒の健康課題を理解する。
14	寒水	ユニット4 学校保健 養護教諭の職務を理解し、健康診断や保健指導と健康相談の事例を通して理解する。
15	寒水	ユニット4 学校保健 学校の感染症予防と対策および各種健康教育について学び、学校保健組織活動や地域保健・産業保健との連携（課題共有）について理解する。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN043715	専門	選択	公衆衛生看護活動論Ⅴ (公衆衛生看護管理)	講義	1	30	15	4年次前期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 4・7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：角森輝美 担当教員：角森輝美・吉田大悟・寒水章納								
授業の目的とねらい								
<p>公衆衛生看護管理の定義や公衆衛生看護活動における管理的機能など公衆衛生看護管理の目的と機能及び情報管理、地域ケアの質の保証、人事管理・予算管理・組織運営など公衆衛生看護管理の構成要素について学ぶとともに、生活と健康に関する社会資源の公平な利用と配分の促進などの管理と活用について学習したうえで、保健師教育や継続教育など専門的自立と人材育成について学習する。また保健事業計画と他計画の整合性の必要性、事業に至る過程について学ぶ</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識 1) 公衆衛生看護管理の理念と公衆衛生看護管理の概念を説明できる。 2) 行政機関の公衆衛生看護管理を説明できる。 3) 保健事業計画の策定・他計画との整合性、事業に至る過程について説明できる。 2. 態度形成 態度 1) ディスカッションの資料を的確に収集し、自分の考えを積極的にのべ、課題が解決できるように役割を担いディスカッションへ参加できる。 3. スキル形成 公衆衛生看護管理の理念、公衆衛生看護における倫理、保健事業計画と、他計画との整合性と、事業に至る過程についてディスカッションの内容や意見を簡潔にまとめディスカッション後の発表ができる。</p>								
準備学習								
<p>講義前にシラバスの学習項目ならびに行動目標を理解した上で、教科書の指定された項目（予習の項目）に目を通しておくこと。 学生は課せられる課題や、その他学習活動に15時間を費やすこと。 講義後は、教科書の図表を中心に、講義内容を復習すること。</p>								
成績評価基準								
筆記試験（60点）、演習レポート（30点）、演習態度（10点）の総合点（100点）で評価する。								
課題等に対するフィードバック								
演習レポートは、評価後に返却し、解説をおこなう。								
教科書・参考書など								
<p>(教科書) 標美奈子他 著 「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 医学書院 中村裕美子他 著 「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」 医学書院 中谷芳美・山口忍他 著 「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」 医学書院 小山望 編集 「これからの「共生社会」を考える」 福村出版</p> <p>(参考書) 新版 保健師業務要覧 第4版 日本看護協会出版会 安梅 勅江編著 「コミュニティ・エンパワメントの技法—当事者主体の新しいシステムづくり」 医歯薬出版株式会社 アセスメントを深めるためのファシリテーターの手引き 日本看護協会健康政策部</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	角森	ユニット1 公衆衛生看護管理の組織運営と管理 地域の保健福祉サービスの提供体制の整備と指導や監視について理解し、地方公共団体の組織運営について理解する。
2	角森	ユニット2 地域における情報管理とケアの質の保証 情報公開や個人情報保護について理解し、情報を扱う保健師の責任や義務を理解する。 保健福祉サービスのケアの質を保証し継続的に展開できる管理を理解する。
3	角森	ユニット3 地域包括ケアの動向と保健師活動 地域包括ケアにおける保健福祉支援制度の連携を学び、地域包括支援センターの役割を理解する。 共生社会を理解する
4	角森	ユニット4 地域組織活動の歴史と概念 (1) 明治期の衛生行政に始まった住民の地域組織活動の変遷を知り、地域組織活動の基本的な展開を理解する。
5	角森	ユニット5 地域組織活動における展開の原則とセルフヘルプグループへの支援 (1) 組織作りは共同で考える関係づくりであることを理解し、組織活動を支援する保健師の役割を修得する。
6	角森・吉田・寒水	ユニット6 公衆衛生看護管理 [演習・・・実習地域について]
7	角森・吉田・寒水	1. 地域の集団を対象にヘルスデータの収集をおこなう。 2. ヘルスデータより、地域のアセスメントをおこなう。
8	角森・吉田・寒水	ユニット7 コミュニティ・エンパワメント [演習・・・実習地域について]
9		1. コミュニティ・エンパワメントのルーツと対象を知り、エンパワメント技術を理解する。 2. コミュニティ・エンパワメントの方法を実践した住民参加型健康プランとアクションプランを理解する。
10		3. 提示した事例に対してコミュニティ・エンパワメントの技法を使って保健計画を作成する。
11	角森・吉田・寒水	ユニット8 地域課題から保健事業計画策定と他計画との整合性、事業に至る過程の実際 [演習・・・実習地域について]
12		1. 他職種との地域課題の共有について理解する。
13		2. 他職種との計画・目標の共有について理解する。
14		3. 他職種との協働による公衆衛生活動について理解する。 4. 提示した事例に対して、PDCAサイクルによる活動の展開を作成する。
15	角森・吉田・寒水	ユニット9 公衆衛生看護活動と研究との関連 [演習] 公衆衛生看護活動を通して得た情報を研究として活用することを理解する。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講時期
DN041760	専門	必修	看護課題研究	演習	2	60	30	4年通年
関連するディプロマ・ポリシー NO. 6・7								
評価責任者及び担当教員								
<p>評価責任者：飯野英親</p> <p>担当教員：飯野英親、岡田賢司、荒川満枝、得能智武、青木久恵、晴佐久悟、内田荘平、岩本利恵、藤岡奈美、中島富有子、角森輝美、宮園真美、三好麻紀、門司真由美、町島希美絵、吉田大悟、末永陽子、秋永和之、中西真美子、青野広子、宮坂啓子、原やよい、黒岩千翔、松尾里香、寒水草納、山中 富、西田彩子、高野佳範、香山真衣子、山元万里子、有永麻里</p>								
授業の目的とねらい								
<p>この科目では、看護研究方法論を踏まえて、看護学研究に関する基礎的理解を得ることを目的として、看護文献研究のプロセスを学修する。また、看護論文のクリティークを通して、看護に関連する研究的課題を明確にし、研究目的を達成するための方法論について学修する。</p> <p>「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」を理解し、対象者の権利擁護のための倫理的配慮についての考え方を学修する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護研究の目的・意義について説明できる。 2) 量的研究の概要について説明できる。 3) 質的研究の概要について説明できる。 4) 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（厚生労働省）」と「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」について、そのガイドライン策定までの背景と内容について説明することができる。 5) 論文を完成させるまでのスケジュールを説明できる。 6) 自ら取り組んだ研究の概要と意義について口頭で説明できる。 <p>2. 態度形成（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関連する予習を行ったうえで授業に参加する。 2) 看護研究を実施する積極的で計画的な学修態度を養う。 3) 自らの看護研究を進めるために、教員と積極的なコミュニケーションを図りながら進める態度を養う。 <p>3. スキル形成（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医学中央雑誌、CiNii、PubMed、CINAHL等文献検索法について実施でき、論文を取り寄せることができる。 2) 自分自身が考えた研究疑問の抽出ができる。 3) 研究疑問に対応するキーワードを設定できる。 4) 課題研究として取り組んで解決可能なレベルの具体的な研究疑問にまで細分化し、研究テーマを絞り込むことができる。 5) 研究論文完成までの研究計画を立案できる。 6) 集めた文献を分類・結果を整理し、各論文の要点を記述できる。 7) 研究の概要を定められた形式で、論文としてまとめることができる。 								
準備学習								
看護研究方法論で学修した知識、考え方、技能を使って看護研究論文を完成させるため、看護研究方法論の学修内容を復習する。予習・復習に必要な時間は全体で60時間とする。								
成績評価基準								
看護課題研究の論文の評価（80点）、授業態度・積極性（20点）など、演習全体に対する取り組みを総合的に確認します。提出物の期限が守れなかった場合は減点対象（-10点）、論文未提出者は評価不能とする。								
課題等に対するフィードバック								
課題は担当教員を通して、グループごと、または個人に対してフィードバックする。								
教科書・参考書など								
<p>教科書： 南 裕子編集 「看護における研究 第2版」日本看護協会出版会、2017</p> <p>参考書： 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（厚生労働省）」 「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」 「看護者の倫理綱領（日本看護協会）」 その他、演習を通して適宜、文献や資料を紹介・配布する。</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1 2 3 4	飯野英親	<p>ユニット1 オリエンテーション、看護研究方法論で学習したことの確認</p> <p>「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「研究活動の不正行為への対応等に関するガイドライン（文部科学省）」について理解する。 研究疑問の抽出から研究テーマの設定例について理解する。 これまでの看護臨地実習を経験して感じた疑問や不思議に感じた点、臨地実習時には不十分だった課題、探求したい問題や現象を洗い出して分類する。</p>
5～30	科目担当の全 教員	<p>ユニット2 研究テーマの設定から論文作成</p> <p>研究疑問の抽出から研究テーマを設定する。 キーワードを元に文献検索して、論文を取り寄せて精読する。 看護課題に対する研究を実施するための研究計画書を作成できる。 文献を通して、結果を整理・まとめることができる。 結果としてまとめ、考察できる。 研究の概要を定められた形式で文章にまとめることができる。 研究概要・意義について口頭で説明できる。</p>

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN043716	専門	選択	公衆衛生看護学実習	実習	5	225	-	4年次通年
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1・2・3・4・5・6・7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：角森輝美 担当教員：角森輝美・吉田大悟・寒水草納								
授業の目的とねらい								
<p>地域社会のすべての人々が、自らの健康課題を解決するプロセスの援助を核とし、地域を基盤に健康問題をとらえ、予防につながる組織的な取り組みを担う保健師の役割と機能について総合的に学修し、行政機関や職場、学校における公衆衛生看護活動の実践方法を学ぶ。その中で、発達段階および健康課題を踏まえた口腔保健活動の実際注目し、地域や職場、学校における集団や個人に対する口腔を起点とした全身の健康支援について学ぶ。</p> <p><学びの重点項目></p> <p>① 支援技術に至るプロセス・現場で学ぶ ② 保健師マインドの育成 ③ 住民を全人的に捉える思考+想像する力 ④ 市町の基本構想⇒分野計画⇒分野事業 ⑤ 地域課題を見つける・課題解決のための事業の実祭・支援方法の体験</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 公衆衛生看護活動に至る過程を説明できる。 2) 公衆衛生看護の個への支援と地域への支援を説明できる。 3) 公衆衛生看護の業務分担と地区分担の違いについて説明できる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1) 積極的にディスカッションへ参加できる。 2) 協力して実習ができる。</p> <p>3. スキル形成</p> <p>1) 住民を生活者・全人的にとらえることができる。 2) 物事の想像ができる。 3) 課題解決の支援技術の方法（家庭訪問・相談・健康教育）を理解し企画実践できる。 4) 個から集団への広がり公衆衛生看護活動が説明できる。 5) ディスカッションの運営と出された意見の板書ができる。</p>								
準備学習								
<p>1. 事前学習</p> <p>(1) 実習開始までに、公衆衛生看護学概論および関連科目の講義内容について復習しておく。 (2) 行政機関・産業・学校の保健計画や健康教育について、公衆衛生看護活動論の演習の部分を読んでおく。 (3) 実習予定地の地域診断・実習地域の社会情勢や健康データなどの情報を収集しておく。</p> <p>2. 事後学習</p> <p>(1) 政令市と県型保健所・市町村にわかれて実習するので、主な項目でまとめて情報交換を行う。 (2) 実習を通して学んだ、健康教育や保健指導および健康相談についてまとめる。 (3) 3年生への実習報告会・2年生公衆衛生看護活動論1での実習報告を行う。</p>								
成績評価基準								
<p>実習目標の達成度を総合的に評価する。 公衆衛生看護学実習担当教員が臨地実習指導者と協議し評価する。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>実習中の課題は教員が評価しフィードバックを行う。</p>								
教科書・参考書など								
<p>(教科書)</p> <p>標美奈子他 著 「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 医学書院 中村美奈子他 編 「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」 医学書院 中谷芳美他 著 「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護学」 医学書院</p> <p>(参考書)</p> <p>井伊久美子他 編 「新版 保健師業務要覧 第3版」 日本看護協会出版会 宮坂忠夫他 著 「最新保健学講座 別巻1 健康教育論」 メヂカルフレンド社 日本健康教育学会 編 「健康教育 ヘルスプロモーションの展開」 保健同人社 Karen Glanz 編/曾根智史他 訳 「健康行動と健康教育 理論・研究・実践」 医学書院 金川克子 監 「効果的な面接技術と事業展開から学ぶ保健指導」 中央法規出版 金川克子 編 「地域看護診断 第2版」 東京大学出版会 佐伯和子 編 「地域看護アセスメントガイド」 医歯薬出版株式会社</p>								

水嶋春朔 著 「地域診断のすすめ方：根拠に基づく健康政策の基盤」 医学書院
 田中逸 著 「セミナー生活習慣病」 日本医事新報社
 都竹茂樹 著 「プレゼンテーションデザイン術」 メディカ社
 「高血圧治療ガイドライン」 日本高血圧学会

授業内容

回	担当教員	授業内容
1	角森・吉田・寒水	ユニット1 地域診断方法について理解する。
2	角森・吉田・寒水	ユニット2 家庭訪問における保健指導について理解する。
3	角森・吉田・寒水	ユニット3 健康教育 地域の健康課題や住民のニーズから考えて行う健康教育について理解する。
4	角森・吉田・寒水	ユニット4 健康相談 保健師が公衆衛生看護活動の中で行う健康相談について理解する。
5	角森・吉田・寒水	ユニット5 組織の支援 地域保健医療福祉体系における保健所および市町村の役割、機能、その組織体系を理解する。
6	角森・吉田・寒水	ユニット6 法的根拠と予算、公衆衛生看護の理念と役割 地域保健法の基本理念に基づき公衆衛生または地域保健ならびに福祉の各種事業の法的根拠と予算について理解する。
7	角森・吉田・寒水	ユニット7 地域ケアシステム 個別事例を通して地域ケアシステムの実際を理解すると共に、地域の健康課題から社会資源の開発や地域ケアシステムを構築するための保健師の役割を理解する。ディスカッションの運営と板書について理解する。
8	角森・吉田・寒水	ユニット8 施策化 施策化に必要な根拠と過程を理解する。予算について理解する。
9	角森・吉田・寒水	ユニット9 健康危機管理 健康危機管理に必要な根拠と組織的な管理体制やシステム構築の必要性について理解する。
10	角森・吉田・寒水	ユニット10 事業及び施策の評価 地域ケアの質を保証するための保健師の役割について理解する。保健師・養護教諭の語りを通して、公衆衛政管後について理解する。
11	角森・吉田・寒水	ユニット11 管理 公衆衛生看護を实践するうえでの管理的な側面である、事例管理・地区管理・業務管理について理解する。
12	角森・吉田・寒水	ユニット12 産業保健 産業保健活動について理解する。
13	角森・吉田・寒水	ユニット13 学校保健 学校保健活動について理解する。公衆衛生看護活動の中の学校保健を理解する。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講時期
DN041762	専門	必修	看護管理	講義	1	15	8	4年後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1・2・3・4								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：飯野英親 担当教員：飯野英親、内田荘平								
授業の目的とねらい								
<p>この科目では、安全で質の高い看護を効果的に提供するために必要なシステムのあり方や看護専門職が組織の一員として果たすべき役割について考える力を養うために、保健医療福祉施設における看護管理に関する基本的知識・技術を修得する。</p> <p>本科目の学修成果は、主に筆記試験、課題レポートで確認する。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉 病院等での成人および高齢者を対象とした看護師としての実務経験を生かし、看護の対象となる人びとの理解や看護の役割と機能について具体的な事例をもとに教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解（知識）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護管理の概念について説明することができる。 2) 看護組織と組織化について説明することができる。 3) リーダーシップとマネジメントについて説明することができる。 4) 医療経済と看護管理について説明することができる。 5) 看護における人的資源管理について説明することができる。 6) 看護キャリア開発について説明することができる。 7) 看護サービスの質保証について説明することができる。 8) 専門職プロフェSSIONAL論について説明することができる。 <p>2. 態度形成（態度）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 関連する予習を行ったうえで授業に参加する。 2) 看護実践を管理することを学ぶ積極的な学修態度を養う。 3) 講義後は、講義中の指定した教科書の項目や図を中心に、講義内容を復習する。 <p>3. スキル形成（技能）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護・病院経営に関連する基本的な統計情報が示す意味を読み取ることができる。 2) 看護管理に関する事例や話題を基に、課題探求力を身につけることができる。 3) 与えられた課題に対し、適切な引用文献を用い、自分の考えや資料からの引用を要約し、レポートを作成することができる。 								
準備学習								
<p>保健師助産師看護師法や看護関連制度・法律、安全管理や看護マネジメント、看護師のキャリアに関する既習の科目について復習を行っておく。授業前にシラバスの該当する部分の教科書を読んでおく。予習・復習に必要な時間は全体で30時間とする。</p>								
成績評価基準								
<p>筆記試験（70%）、課題レポート（30%）で評価する。授業に対するコメントなど、提出物の期限が守れなかった場合は減点対象とする。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>授業に対するコメントは返却し、今後の学習に生かすことができるよう解説を行う。</p>								
教科書・参考書など								
<p>教科書： 小池智子編集「看護サービス管理 第5版」医学書院、2018 飯野英親・深澤優子著「20代ナースに伝えたい職業人としての心得」日本看護協会出版会、2014</p> <p>参考書：原 玲子著「学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門」, 日本看護協会出版会, 2011 その他適宜提示する</p>								

授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	飯野英親	ユニット1 看護管理の概念 看護管理の目的・対象、看護管理過程について学ぶ。
2	内田荘平	ユニット2 組織と組織化 組織構造と機能、組織文化、看護提供のための組織と組織化について学ぶ。
3	内田荘平	ユニット3 リーダーシップとマネジメント リーダーシップの概念、リーダーシップ論の変遷、看護師のリーダーシップについて学ぶ。
4	飯野英親	ユニット4 医療経済と看護管理 経営活動と看護管理との関連、医療提供に関連する法律について学ぶ。
5	内田荘平	ユニット5 看護における人的資源管理 看護部における人員配置と人事労務管理、労働環境の整備の概要について学ぶ。
6	飯野英親	ユニット6 看護キャリア開発 看護部組織におけるキャリア開発の位置づけ、現任教育、目標管理について学ぶ。
7	内田荘平	ユニット7 看護サービスの質保証 医療・看護の質の評価、患者満足と職務満足について学ぶ。
8	飯野英親	ユニット8 専門職のプロフェッショナル化 看護専門職としての倫理、患者の権利擁護、看護プロフェッショナル意識について学ぶ。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間	コマ数	開講期間
DN041761	専門	必修	包括的情報システム論	演習	1	30	15	4年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1. 2. 3. 4. 5. 7								
評価責任者及び担当教員 青木久恵、角森輝美、上野道雄								
評価責任者：角森輝美								
授業の目的とねらい								
<p>(授業のねらい)</p> <p>看護の対象者が、健康に障がいを持ちながら地域で最適な生活 (well-being) を営むためには、医療 (看護を含む)・介護・福祉に関わる多職種が対象者の意思決定を支援し、協議に基づいた一定の方針のもとに多職種連携チームで支援を行う必要性を学ぶことを目的とする。また、これらの連携をサポートするための包括的な情報システムの開発と常に化する現状の課題に応じたシステムの改善に向けた検討ができる基礎的な能力を修得することを目的とする。さらに、インターネット等を活用した文献収集力、パワーポイントによるプレゼンテーション能力、及び対象者の最適な生活 (well-being) に向けた効果的な他職種間の情報共有や協議のあり方について考察する力の育成を目指す。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>行政における保健師および公的病院における看護師の実務経験を生かし、対象者の最適な生活 (well-being) に向けた、医療・介護・福祉に関わる多職種連携のあり方について教授する。さらに、公的病院の管理者、職能団体の役員、地域包括ケアシステムの構築に関する行政等の委員の実務経験を生かし、看護の対象者の最適な生活 (well-being) をよりよく支援できるための病院や地域の現状と課題について教授する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 医療 (看護を含む)・介護・福祉に関わる多職種が看護の対象者の意思決定を支援し、多職種連携チームによる協議に基づいた一定の方針のもとに支援を行う必要性について理解できる。</p> <p>2) 看護を必要とする人々の最適な生活 (well-being) に向けた情報システムや多職種連携についての現状と課題を理解できる。</p> <p>3) 現代に求められている新たな多職種連携のあり方についての具体例を知ることができる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1) 看護を必要とする人々とそれを支える多職種のあり方について関心を持つことができる。</p> <p>2) これからの地域をささえる地域包括ケアシステムのよりよい構築および発展に向けて、自身を関与させながら関心を持つことができる。</p> <p>3. 技能</p> <p>1) 地域包括ケアシステムや病院および地域における多職種連携の現状と課題について、インターネット等によって文献検索を行って最新の情報を幅広く収集することができる。</p> <p>2) 看護を必要とする人々 (個・家族・集団) に対して、医療 (看護を含む)・介護・福祉に関わる現状と課題について自身の考えをまとめることができる。</p> <p>3) 看護を必要とする人々の最適な生活 (well-being) をよりよく支援できるための方策について、自身の考えをまとめ、パワーポイントを作成し、プレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>(1) 多職種連携および情報共有のあり方と医療事故との関連</p> <p>(2) 患者の well-being に影響を及ぼす、病院および地域における情報共有</p> <p>(3) 医療 - 介護連携の現状と課題</p> <p>4) ディスカッションを通して自身の考えを発展させることができる。</p>								
準備学習								
<p>学生は、国民の衛生動向を熟読し、地域医療構想・地域包括ケアシステムの現状と課題について予習しておく。また、これまでの臨地実習での経験も踏まえ、受け持ち患者の入院中、退院後の最適な生活 (well-being) を支援する上で、医療・介護・福祉に関する現状のシステムや課題を理解し、その改善に向けた自身の考えをまとめる。授業で配布するプリントをもとに復習を行い、課題に対する関連資料を検索して理解を深める。発表課題についてのプレゼンテーション準備やその他学習活動に約 15 時間以上を費やすこと。</p>								
成績評価基準								
<p>授業態度・グループ討議・プレゼンテーション資料・課題発表内容 (50 点)、個別レポート作成 (50 点) の区分で総合して評価する。但し、課題の提出率が 80%未満の場合は、20 点の減点とする。提出物の提出期限に遅れた場合には減点対象とする。</p>								

課題等に対するフィードバック		
課題発表および提出されたレポート課題については、授業の中でフィードバックを行う。		
教科書・参考書など		
教科書：河野あゆみ編 新体系看護学全書 「在宅看護論」 メヂカルフレンド社 臺有桂・石田千絵・山下留理子編 「ナーシング・グラフィック在宅看護論 地域医療を支えるケア」メディ カ出版 国民衛生の動向 2022 /2023 参考書：公益社団法人 日本看護協会健康政策部 編 「実践力 UP 事例検討会～みて・考えて・理解して～」公益社団 法人日本看護協会 松田晋哉 「地域医療構想をどう策定するか」 医学書院		
授業内容		
回	担当教員	授業内容
1	青木 (上野・角森)	ユニット1 対象者の well-being と看護 統合看護学実習での学びを想起し、看護の対象の地域での生活から入院生 活、退院後の地域での生活を支える上での看護における現状と課題について 理解し、課題解決策を検討できることを目指す。
2	上野	ユニット2：情報システムと多職種連携に関する現状と課題 1. 病院内における医療情報システムの現状と課題についての講義を受け、関係 資料を収集した上で自身の考えを整理できる。
3	上野	2. 病院と地域における多職種連携についての現状と課題について理解し、関係 資料を収集した上で自身の考えを整理できる。
4	上野	3. 多職種連携および情報共有のあり方と医療事故との関連について理解し、関 係資料を収集した上で自身の考えを整理できる。
5	上野	4. 多職種連携及び情報共有のあり方と医療事故との関連について理解できる。
6-7	上野・青木	5. 発展課題 グループワーク 課題1「地域医療構想・地域包括ケアシステム現状と課題」 新聞記事・論文などの情報をインターネットで収集し、テーマに関 する情報をもとに考えをまとめ、パワーポイントを作成することが できる。グループ内でプレゼンテーションを行い、協議を行って考 察を深めることができる。
8	上野・青木	6. 課題1に関する発表会 グループワークで深めた考えをまとめ、パワーポイント資料で発表を行い、 ディスカッションにてさらに考察を深めることができる。
9	角森	ユニット3：地域医療構想・地域包括ケアシステムの現状と課題 1. 地域医療構想・地域包括ケアシステムの現状と課題について理解し、関係資料 を収集した上で自身の考えを整理できる。
10	角森	2. 講義の受講を通して、医療・介護連携について理解し、自身の考えを整理で きる。
11	角森	3. 地域ケア会議の事例検討について理解し、自身の考えを整理できる。
12-13	青木・角森・上野	ユニット4： 発展課題 グループワーク 1. 下記の課題についての文献を収集し、課題に対する考えをパワーポイントを作 成し、グループ内でのディスカッションを通して発展させることができる。 課題2「医療・介護連携の課題と対策」 課題3「患者の well-being care に影響を及ぼす、病院および地域における情 報共有に関する現状と課題」
14	青木・角森・上野	2. 課題2に関する発表会 グループワークで深めた課題2に対する考えをパワーポイントにまとめて発 表し、ディスカッションを通して発展させることができる。
15	青木・角森	3. 課題3に関する発表会 グループワークで深めた課題3に対する考えをパワーポイントにまとめて発 表し、ディスカッションを通して発展させることができる。

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN043762	専門	選択	災害看護	演習	1	15	8	4年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO. 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7								
評価責任者及び担当教員								
評価責任者：末永陽子 担当教員：森田浩光、末永陽子、秋永和之								
授業の目的とねらい								
<p>災害看護では、災害における対象者の身体的・心理的・社会的特徴を学び、災害の実践の場で活動するための基礎的知識を養うことを目的としている。</p> <p>学生はこれまでの各対象者への看護を学んだことを基盤とし、災害サイクルに応じた看護について学ぶ。</p> <p>災害は想起しにくい特徴を持つため、災害で活動する各種団体の中で、看護のもつ役割と機能について視聴覚教材を用いながら教授する。また、クロスロードやトリアージ事例を用いたディスカッションを通して、災害時に生じやすいジレンマについて教授する。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>災害拠点病院、災害支援病院、災害における所属団体における救護活動や看護活動の経験を活かし、災害の場面で想起できるように工夫し、看護の実践を工夫する。また、被災者の well-being を目指した看護について深く考えることを指導する。</p>								
到達目標								
<p>1. 全体像の理解 知識</p> <p>1) 災害医療の特徴を述べることができる。</p> <p>2) 災害看護の場と役割を述べるができる。</p> <p>3) 災害における口腔ケアの意義を述べるができる。</p> <p>4) 災害時に生じるジレンマへの自己の考えを述べるができる。</p> <p>2. 態度形成 態度</p> <p>1) 災害看護活動におけるグループディスカッションに積極的に参加できる。</p> <p>2) 計画的に課題に取り組むことができる。</p> <p>3) 災害が生じた場面を想起し、看護職としての役割を果たすための知識を習得できる。</p> <p>3. スキル形成</p> <p>1) 災害急性期で必要とされる救助法・トリアージを身につけることができる。</p> <p>2) 災害看護に関する事例や話題を基に、課題探求力を身につけることができる。</p>								
準備学習								
<p>予習・復習に必要な時間は全体で8時間とする。</p> <p>事前課題のレポートを作成し、初回授業にのぞむ。各回に必要な資料や文献を準備する。</p>								
成績評価基準								
<p>個人で作成するレポート 80%、グループディスカッションへの参加態度 20%の割合で評価する。</p> <p>課題の締め切りに遅れた場合は減点する。</p>								
課題等に対するフィードバック								
<p>課題レポートは授業の中で事前解説をおこなった内容とし、評価終了後にコメントを含めて返却する。</p>								
教科書・参考書など								
<p>(教科書)</p> <p>酒井明子 編 ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 株式会社メディカ出版</p> <p>(参考書)</p> <p>浦田喜久子他 「系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学」 医学書院</p> <p>南裕子 編 「災害看護学学習テキスト 実践編」 日本看護協会出版会</p>								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	末永	<p>ユニット1 災害による健康障害</p> <p>1) 災害の種類について学ぶ。</p> <p>2) 災害における健康障害について学ぶ。</p> <p>3) 災害要援護者の特徴について学ぶ。</p>						

2	末永	<p>ユニット2 法制度を含む社会の救助システム</p> <p>1) 災害時の救助システムの活用について学ぶ。</p> <p>2) 地域における防災対策・教育について学ぶ。</p> <p>3) クロスロードをもとにディスカッションし、災害時の岐路に立った際の行動について学ぶ。</p>
3	末永	<p>ユニット3 災害サイクルに応じた看護</p> <p>1) 災害における看護職の役割について学ぶ。</p> <p>2) 災害の急性期・亜急性期における看護活動について学ぶ。</p>
4	末永	<p>ユニット3 災害サイクルに応じた看護</p> <p>1) 災害超急性期の看護の特徴を学ぶ。</p> <p>2) 災害の基本概念 CSCATTT について学ぶ。</p> <p>3) トリアージの実践を学ぶ。</p> <p>4) トリアージの複数事例をディスカッションし、トリアージで生じる葛藤を学ぶ。</p>
5	秋永	<p>ユニット3 災害サイクルに応じた看護</p> <p>1) 災害急性期の看護の特徴を学ぶ。</p> <p>2) 外傷の応急処置を学ぶ。</p>
6	秋永	<p>ユニット3 災害サイクルに応じた看護</p> <p>1) 災害の慢性期・復興期における看護活動について学ぶ。</p> <p>2) 災害の静穏期における看護活動について学ぶ。</p>
7	森田	<p>ユニット4 災害支援活動の実例</p> <p>1) 災害における口腔診療の事例を通し、被災地での災害支援活動について学ぶ。</p>
8	末永	<p>ユニット4 災害支援活動の実例</p> <p>1) 事例を通し、被災地での災害支援活動の計画の作成方法を学ぶ。</p>

科目コード	分野	科目区分	科目名	授業形態	単位数	時間数	コマ数	開講期間
DN043763	専門	選択	国際看護	講義	1	15	8	4年次後期
関連するディプロマ・ポリシー NO.1.2.3.4.7								
評価責任者及び担当教員 宮坂啓子								
評価責任者：宮坂啓子 担当教員：宮坂啓子								
授業の目的とねらい								
<p>国際的な看護に関する組織や、世界の保険医療・福祉に関する現状や課題について理解する。また、国際的な視野で国や地域、民族による看護問題や健康課題について理解し、自国の看護活動と比較検討することができる。</p> <p>また、国際看護および国際保健に関わる国際機関の役割と機能について、社会的・経済的な諸問題に焦点をあて、その多様性を学ぶ。国際化を考慮した看護がどこで必要とされるかなどについて分析して、発表することができる。</p> <p>〈実務経験を生かした教育内容〉</p> <p>ニュージーランドで医療通訳者として働いた経験を基に、日本の看護と比較検討し、様々な視点で看護師が行う国際協力や看護活動について教授する。</p>								
到達目標								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際的視点から捉えた健康課題と国際機関の役割と機能について説明できる。 ・ 世界の各地域における看護の在り様や実践、及び具体的な国際保健や看護の取り組みと課題について説明できる。 ・ 国際社会が共同して取り組む国際保健医療協力の仕組みについて説明できる。 ・ 国際看護活動に必要とされる態度・能力・知識・技術について説明することができる 								
準備学習								
準備学習は各回の事前に与えられた用語の説明や活動の学習、まとめの発表の準備に使う。(全体で29時間程度)								
成績評価基準								
■プレゼンテーション(発表)60% ■課題レポート・リアクションペーパー40%								
課題等に対するフィードバック								
課題レポート・リアクションペーパーは、評価後に解説し返却する。								
教科書・参考書など								
(教科書)								
なし								
(参考書)								
適宜指示する								
授業内容								
回	担当教員	授業内容						
1	宮坂	国際看護学の概念と対象を理解し、国際看護学の概念を説明できる 1) 国際看護学の概念を説明できる 2) 国際看護の中で看護師の果たす役割について述べるができる 3) 我が国の国際看護協力の歴史について述べるができる						
2	宮坂	異文化看護、文化の中の看護を理解する 1) 文化と看護について述べるができる 2) 異文化看護の視点について述べるができる 3) 文化ケアアプローチ・適応 について述べるができる						
3	宮坂	世界の健康課題、健康問題と関連する機関との連携にいて理解する 1) 世界的な健康課題と基本概念について述べるができる 2) 世界的健康課題について述べるができる 3) 災害と健康について述べるができる 4) 国際機関と国際協力について述べるができる						

4	宮坂	<p>国際看護や国際保健医療に必要な概念や関連領域の知識を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 世界の保健医療システムと課題について述べることができる 2) 世界の保健医療システムと看護の課題について述べることができる
5	宮坂	<p>在日外国人の医療と看護、在外日本人の医療と看護について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際協力機関について述べるができる 2) 在日外国人・訪日外国人への医療と看護について述べるができる 3) 在外日本人の医療と看護について述べるができる
6	宮坂	<p>国際看護活動実践1：海外で活躍する日本人看護師（ゲストスピーカー） 国際看護で必要とされる態度・能力・知識・技術についてインタビューを通して理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際看護に必要とされる態度と能力について述べるができる 2) 訪問看護師として働く日本人看護師にインタビューを行い、国際看護で必要とされる態度・能力・知識・技術について考えを述べるができる
7	宮坂	<p>国際的に必要な様々な領域とその傾向について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 以下の項目について調べ、国際看護に必要な視点を理解することができる <ol style="list-style-type: none"> ①開発と経済 ②異文化ケア ③紛争と健康 ④栄養 ⑤リプロダクティブヘルス・ケア ⑥健康教育とヘルスシステム ⑦口腔保健について <p>*事前学習、ディベートやディスカッションを行い、国際的な問題について自分の意見を述べる ことができる。</p>
8	宮坂	<p>今後の国際看護活動についての展望や考えをプレゼンテーションする</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際看護活動に必要とされる態度・能力・知識・技術について述べるができる 2) これからの国際看護について課題や期待について考えを述べるができる。 2) 国際看護について、他者の発表からより学びを深める



福岡看護大学

FUKUOKA NURSING COLLEGE

看護学部看護学科

〒814-0193

福岡市早良区田村2丁目15番1号

TEL : 092-801-0485 (教務課)